職場体験 MENU

Q.図書館ってどんなお仕事？

A.「職場体験」はお仕事の内容を知るチャンス！

職場体験の1日を追っていくよ！

エプロンと名札を身に付けて職場体験開始！

1.オリエンテーション

図書館の本の並べ方やカウンターでのお仕事について説明を受けてから館内見学へ！

2.本返し

本を書架（本棚）に戻すお仕事です

3.カウンター

利用者の方から返ってきた資料（本、CD など）のバーコードを読み込んで返却処理をします

4.ポップ書き

皆さんが読んで面白かった本、印象に残っている本を紹介するポップを書きます

おつかれさまでした！

＊2日目以降は新聞データベースの使い方講座や蔵書点検なども体験できますよ！

●本の表紙掲載については、出版社の許諾を得ています。

編集・発行　長岡市立中央図書館（0258-32-0658）
図書館HP　https://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp
図書館メールアドレス　nagaoka@lib.city.nagaoka.niigata.jp

WE'RE YOUNG-JIN

（ウィー アー ヤン ジン）

長岡市立中央図書館中高生向け広報誌

ヤンジン vol.69　2023.2

今号の特集！

- ●ボランティアさんのオススメ/POP 展示
- ●おすすめ本の紹介「進路」
- ●図書館の職場体験

みんなのオススメ

図書館で職場体験・ボランティア活動をしてくれたみなさんから、オススメの一冊を教えていただきました。その中の一部をご紹介します！

（編集にあたり、内容は変えずに一部変更省略したところがあります）

『四畳半タイムマシンブルース』

上田 誠／原案　森見 登美彦／著

KADOKAWA

「京都の夏、我が四畳半はタクラマカン砂漠のごとき炎熱地獄と化す」

小津がコーラをこぼしたことによって、下鴨幽水荘（しもがもゆうすいそう）で唯一「私」が住む209号室のクーラーのリモコンが壊れる。そんな時に現れたタイムマシン。

“昨日”からクーラーのリモコンを持ってきてしまったことによって、全宇宙は破滅の危機に瀕した。果たして全宇宙はどうなってしまうのか。また「私」と明石さんの恋の行方は？（栖吉中２年　Ｍさん）

『星の王子さま』

サン=テグジュペリ／著　河野 万里子／訳

新潮社

砂漠に飛行機で不時着した「僕」が出会った男の子は、小さな星から出てきて、いくつもの星を旅してきた王子さまだった。王子は様々な星で大人と出会い、いろんなことを感じていく。

「いちばんたいせつなことは、目に見えない」

本当の大人とは、人間として本当に大切なこと、忘れてはいけないものとは何か、を考えさせられる作品です。（商業高校２年　Ｗさん）

『記憶屋』

織守（おりがみ） きょうや／著

KADOKAWA／角川ホラー文庫

大学生の遼一は、想いを寄せる先輩の杏子の夜道恐怖症を一緒に治そうとしていた。しかし杏子は忘れたい記憶を消してくれるという都市伝説の怪人「記憶屋」を探しに行き、忘れたい記憶と共に遼一のことも忘れてしまう。記憶屋は実在しないと思っている遼一。だが杏子以外にも不自然に記憶が無くなっていると知り、記憶屋を探り始めるが…。

誰も予想できない衝撃のラスト！？（南中１年　Ｋさん）

職場体験、ボランティアさんのポップ展示中！

２月中！

ボランティアさんたちに描いていただいたオススメ本のポップを今年は一般テーマコーナーに展示しています。ぜひご覧ください！

今回のテーマは…

進路

あなたの思い描く未来はどんな形ですか？
どういう道を歩みたいですか？
自分の夢に向かって走る皆さん、まだ先が見えない
という皆さんに寄り添えるような本を紹介します。

進学

『なぜ私たちは理系を選んだのか 未来につながる〈理〉のチカラ』

桝（ます） 太一（たいち）／著　岩波書店

アナウンサーをしている桝太一（ますたいち）さんのインタビューをまとめた本書。大学で理系を学びさまざまな分野で活躍中の７人（アスリート、YouTuber（ユーチューバー）、テーマパークのエンジニアなど）が、理系の魅力や現在までの道のりを語っています。「好きなこと」を自分の未来に繋（つな）げるために、苦手なことにも突き進む行動力に感服です。理系に限らず、進路の選択に悩む中高生におすすめ！

『劣等生の東大合格体験記 15歳の寺子屋』

石黒（いしぐろ） 達昌（たつあき）／著　講談社

著者は東京大学医学部を卒業し、医師と作家をしている石黒達昌さん。経歴だけ聞くと、雲の上の人のように感じるかもしれません。しかし、石黒さんは受験や仕事の中で挫折（ざせつ）を経験し、またチャレンジする中で学ぶこと・働くことの意味を見出していきました。これからの受験や将来に不安を感じる時、背中を押してくれる１冊です。

『ラジオラジオラジオ！』

加藤　千恵／著　河出書房新社

高校３年生の華菜と智香は、地元の小さなFM局でラジオ番組を担当している。始めた頃は夢中になっていたものの、智香が受験勉強に集中するため休むことになり、仲の良かった２人の関係は少しずつギクシャクしてしまう…。それぞれに思い描く未来があり、悩みながらも進む道を決めていく２人。未来が不安になった時、進路に悩んだ時、勇気をもらえる１冊です。

就職

『働く人の夢　33人のしごと、夢、きっかけ』

日本ドリームプロジェクト／編
いろは出版

働くってどういうこと？将来の夢って何？自分を知ることが夢への第一歩です。自分を知って、本当にやりたいことを仕事にしている人は、どんなに大変でも幸せそうに輝いて働いていると感じます。いろんな場所で働く、いろんな年代の３３人の働く「きっかけ」や「仕事への思い」、皆さんの将来の夢の参考になるはずです！

『みえない未来相談室。すきなコトを仕事にする方法』

k.m.p.／著　河出書房新社

〇〇が好きかも、とあなたの中で漠然（ばくぜん）としているものが将来あなたの仕事になるかもしれません。「仕事」とは、相手に利益を与え、報酬（ほうしゅう）を得ること。自分の好きを仕事に出来たら素敵ですよね。“名前のない仕事”をしている著者が、職業の肩書に捉（とら）われずに自分の好きを追求し、どんな人生を歩んできたのか。きっと未来の選択肢を増やしてくれますよ。

『シューカツ！』

石田　衣良／著　文藝春秋

大学３年生の水越千晴（みずこしちはる）は、仲間７人で就職活動のための対策チームを結成した。その名も「シューカツプロジェクトチーム」。目標は、最難関（さいなんかん）とされるマスコミ（出版社やテレビ局）に全員就職すること。チームで議論をくり返し、高めあった７人の「シューカツ」の結末は？泣いて笑って努力して、千晴が夢を叶えていく姿がとてもかっこいいです！